

当者、受講した木造高校深浦校舎の引率教員、参加した高校生と市民参加者のコメント、また講師として円覚寺の御寺宝を案内下さった円覚寺海浦由羽子氏にコメントを寄せていただいた。

最後に、活動報告として、円覚寺古典籍保存プロジェクト代表の渡辺が、今年の調査活動の経過報告をまとめた。

付録として、今年一年の活動について写真を掲載した。①に一年間の調査の様子、②に三月に学術交流協定を締結した時の様子、③に七月に開催した成果報告会の様子、④に醍醐寺聖教調査団との合同調査の様子、⑤に一二月に行った、弘前大学深浦エコサテライトキャンパス特別公開講座の写真を掲載した。

最後に、このプロジェクトの活動を紹介した新聞記事と、フォーラムのポスター・チラシを掲載した。

また、第二集の表紙は、『兵法虎之巻』（右上）、『秘蔵記』（左上）、『三昧耶戒序』（右下）、『大師執筆法』（左下）（いずれも深浦円覚寺所蔵、本誌中解題掲載）の一部を掲載している。

編集後記

弘前大学人文社会科学部 渡辺 麻里子

様々な方のお力添えで、今年も『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第二集が完成した。ご協力下さった皆様に、心より御礼申し上げます。

本書は深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトの二〇一九年三月から二〇二〇年一月までの約一年間にわたる調査研究の成果を中間報告としてまとめたものである。調査は三年目となったが、まだまだ調査が及ばないところもあり、今後の調査によって判明することもあるかと思うが、

ともかくも、現時点での報告を一旦まとめておく。

調査をしていると、幾多の歴史を越えて、平成そして令和の現在に眼前に存在するこれらの資料を遺してくれた先人の強い意志を感じる。また様々な貴重な本を開くことができた時、それらの本に出会えた喜びを感じる。貴重な資料を遺してくれた先人に感謝すると同時に、未来に遺すにはどうしたら良いのか考えていかなければならない責任がある。未来につなげていくことは、現在の私たちの務めなのである。

現在この調査は、弘前大学の教員・大学院生・学部学生、深浦町民と高校生で進めている。調査に参加する理由は様々で構わない。それぞれの興味関心で参加していただき、地域の文化財に触れ、学びながら地域貢献する活動に、一人でも多くの方に参加していただければと願う。

この調査団は、地域の人と一緒に調査を行う調査形式で、「青森モデル」と称した、先駆的な資料調査方式で行っている。この報告書を見て調査に興味を持った方、参加してみたいと思われる方は、深浦町の広報誌を見ていただき、また深浦町教育委員会にお問い合わせいただければと思う。

調査は三年目となったが、まだまだ全体像は把握できずにおり、本報告書も、不備遺漏が多いことと思う。各位には、御教示賜りたくお願い申し上げます。

深浦円覚寺古典籍調査プロジェクトは、様々な方のご協力ご支援に支えられている。調査・閲覧を許可下さっている所蔵者の円覚寺、本の搬入搬出に協力下さり、調査会場を提供して下さい、深浦町役場の皆様にも心より御礼申し上げます。また、調査に協力下さっている全ての皆様に心より御礼を申し上げます。

末筆ながら、本報告書の製作刊行に尽力下さった、有限会社小野印刷所のご担当の方々に衷心より感謝申し上げます。